Vol.75　1 つのコード上で演奏アイディアがどれだけ出せるか　～その 3～

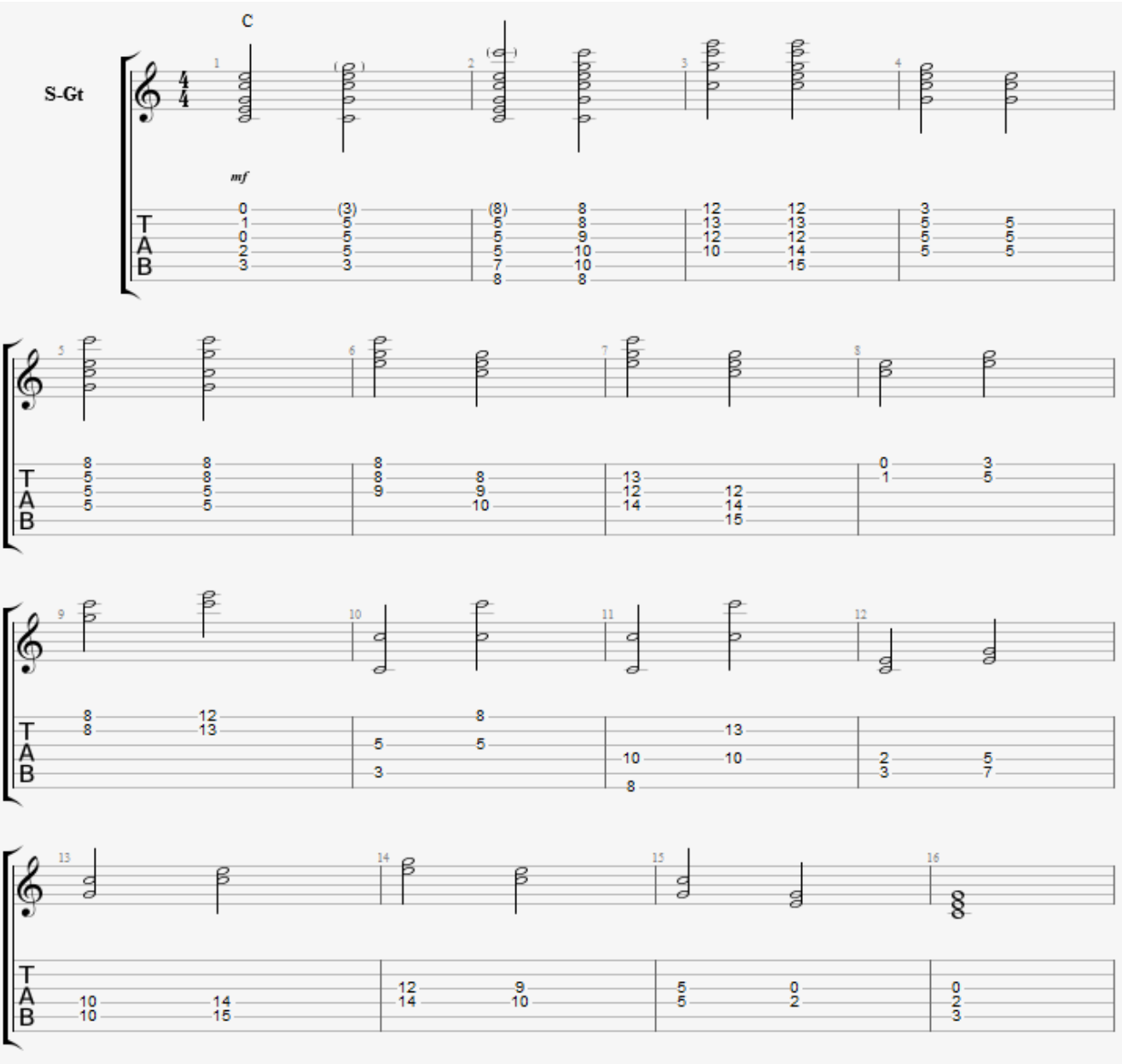
『10 分トレ』vol.75、始めていきましょう。

さて、引き続き「アイディア出し」をやっていくのですが、今回は少し趣向を変えて、「1 つのコードのヴォイシングをどれだけ思いつくか？」と言う事をやってみます。

例えば、「C」コードを指定されたとして、指板上で何種類くらいの押さえ方、弾き方が自分から出てくるのか？ということですね。

代表的なものから、一部を抜き出したようなものまで、色々と考えてみましょうか。

譜例、C コード、各種ヴォイシング



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

と、言うことで、とりあえずパッと思いつくものを挙げてみました。

定番のコード・ヴォイシングや、コードの構成音をダブル・ストップ的に抜き出したものまで、ワン・コードと言ってもこれくらいはバリエーションが可能ですね。

おそらく、モノとしてはほとんど過去に配布した教材内で見ているはずです。

展開系も元々のCコードとして含めているので、解釈としては、C/EやC/Gの様な状態になっていたりもします。

これらを素材に、譜割りやリズムを付けてやると、フレーズとして成り立つわけですね。

後、今回は「C」と言う「トライアド」を題材にしましたが、これを7thコード等の4和音以上で考えてみたりすると、もっとバリエーションが出せます。

さらにテンションを加えたりすると相当量になるのですが、その辺りまで行くと、他のコードのヴォイシングとも被って来るので、それぞれの繋がりが見えてくるでしょう。

こうして量だけを見ると、気が遠くなりそうですが、調性音楽の場合、大元の音数が(基本的には)7音なので、パターンは一定量に留まります。

こう言ったものの中から、自分の好きなヴォイシングを見つけてフレージングしていき、ネタを増やしていく、と言う事ですね。

これらはスケール・ポジションの把握とも関連しているので、総合的な観点から指板上の音を見る事が出来るようにしていきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved